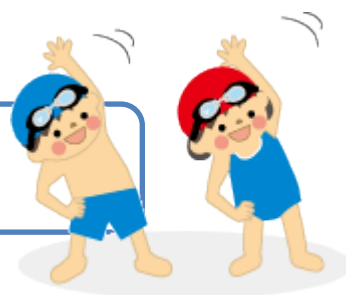


プール前の健康観察



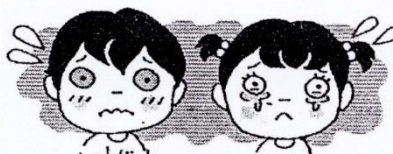
☆全身的な健康状態

- 元気があるか？機嫌が悪くないか？
- よく眠れたか？あくびをしていないか？
- 食欲があるか？
- 顔色が悪くないか？
- 熱がないか？
- 頭痛や腹痛はないか？
- 下痢をしていないか？
- 皮膚がただれていないか？発疹や湿疹がないか？
ジュクジュクした傷はないか？
- けがをしていないか？



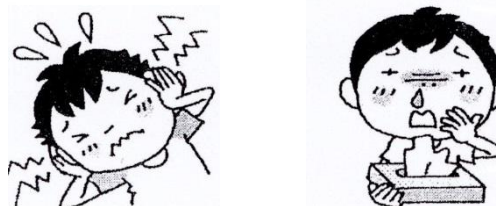
☆目の状態

- 目やにが出ていないか？
- 充血していないか？
- 涙目になっていないか？



☆耳・鼻・口腔の健康状態

- 耳だれ・鼻水が出ていないか？
- 鼻づまりがないか？
- くしゃみ・咳が出ていないか？
- 耳が痛くないか？



朝の健康観察はとても大事です！！

水泳はとても体力を使うスポーツです。また、水の中に入ることによって普段の生活では、支障がないことでも、水泳においては大きく影響します。朝の健康観察は、とても重要です。お子さんの健康状態を把握したうえで、水泳に参加できるかどうか判断していただきたいと思ひます。

プールで気をつけたい感染症

《伝染性膿痂疹（とびひ）》

虫さされや湿疹などをかきむしったところの浸出液、水泡内容などで次々にうつります。

プールの水ではうつりませんが、触れることで症状を悪化させたり、他の人にうつす恐れがありますので、プールや水泳は治るまで禁止して下さい。



《伝染性軟属腫（みずいぼ）》

手足や体に3mm程度の白色のいぼが出来ます。かいてしまうと、いぼの中にあるウィルスが出て、感染部位が広がります。プールの水ではうつりませんので、プールに入ってもかまいません。ただし、タオルや浮き輪、ビート板などを介してうつることもありますので、共用することは出来るだけさせて下さい。プールの後はシャワーで肌をきれいに洗いましょう。



《咽頭結膜熱（プール熱）》

38～39度の高熱が、5日程度続き、結膜炎、のどの痛みやリンパ節の腫れなどの症状が出ます。原因は、アデノウィルスで、タオルの貸し借りなどから感染することもあります。プール熱とも呼ばれています。



《腸管出血性大腸菌感染症》

症状は、激しい腹痛と下痢、血便でひどくなると嘔吐や高熱を伴います。最悪の場合、命に関わることもあります。腸管出血性大腸菌O-157などが原因。プールで大量に発生することもあります。



《流行性角結膜炎（はやり目）》

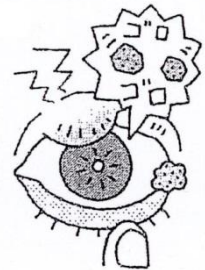
結膜の充血、目の浮腫などが強く、流涙があったり、耳前のリンパ節が腫れて痛みます。治癒までには2～3週間かかることが多いです。

原因はアデノウィルスで手などの接触を通じて感染します。プールではタオルの貸し借りはやめましょう。



《急性出血性結膜炎》

強い目の痛み、違和感から結膜炎の症状が出ます。まぶたが腫れたり、目の周囲がむくんだりしますが、たいていは1週間程度で治癒します。原因は、エンテロウィルスやコクサッキーウィルスの変異型。タオルの共用はさけてください。



※上記記載の病気では、**伝染性軟属腫（みずいぼ）**以外は、プールには入れません。

参照：学校感染症 第三種 その他の感染症：皮膚の学校感染症とプールに関する日本臨床 皮膚科医会・日本小児皮膚科学会の統一見解より